

3 地域の人や、子供の近くにいる人と子供の育ちを共有したい！

園の周りには様々な地域のコミュニティがあり、公共施設もある。これらが目指しているのは、地域の活性化であったり、地域住民の生活をさらに豊かにすることであったりする。地域の子供を育むうえで、大切な土壌づくりを目指すのは、園と同様である。

地域の人材・資源と、教育目標や園の願う助力の方法等を共有し、園での遊びは保育者の意図的、計画的な教育であることへの理解を進め、連携・協働して社会に開かれたカリキュラムの実現を目指す。

事例

7

子供の発達と支援について共通理解を深めよう

・全ての園職員が子供の発達理解・保護者理解の推進者

ねらい

- (ねらい) ・夏野菜の世話や収穫等、身近な事象を見たり、考えたりする中で、物の性質や数量等の感覚を豊かにする。
- ・栽培や、栽培したものを食べるなどの体験を通して、給食調理員への感謝の気持ちや、食に対する興味や関心を高める。
- (内容) ・自分たちで世話をしてきた夏野菜を収穫したり食べたりして、においや味、食感を楽しみ、おいしさに気付く。
- ・夏野菜を見たり触れたりする中で、変化や数や形、大きさ、重さ等の違いや性質に気付く。

ナスのヘタの近くに白いところができるのはなぜ？（5歳児 7月）

夏野菜を栽培し、ナスが収穫できる大きさになった。子供たちは、採れた野菜をテラスに並べ、数を数えて、たくさん採れたことを喜び合っている。

ちょうど近くを通り掛った給食調理員に「Nさん、見て！こんなにいっぱい採れたんだよ」と喜んで知らせるA児、B児、C児。ナスを見たNさんが、「このナス、ここが白いね」とヘタと実の境目の部分をさしてつぶやく。「本当だ！色が違うね」「なんで？」「なんで白いんだろうね」「あ！もしかしたらお日様が当たってないのかな」など、考えたことをつぶやく子供たち。「Nさんは知ってるの？」とC児が聞くと、「これはね、ナスがちょっと大きくなったってことなの。夜のうちに実が大きくなると、こうやって白くなるんだよ。太陽に当たると紫色になっちゃうから、朝採れたってことが分かる印なんだよ」と教わり、「へえ～そうなんだ！」「じゃあ白いやつは夜に大きくなったってことなんだね」と、目を丸くして驚いた子供たち。早速並べたナスを一つ一つ見て、成長したナスを探し始めた。



【ナスを並べる】

子供の育ち

自然との関わり・生命尊重

数量や図形などへの関心・感覚

- ・野菜の生長や、野菜が様々な形や大きさになることに気付き、不思議さを感じている。また、収穫数への興味や関心も高まっている。
- ・ナスの生長と朝採れの証拠でもある“ヘタ付近の白い部分”の話は、子供たちにとって観察と収穫の楽しみとなった。

調理する過程を意識したり、作る人に感謝したりできるようになる



園で栽培しているナスであるが、食べるのは苦手とする子も多い。

収穫後のナスについて、「おいしく作ってください」という子供たちからのお願いが、給食調理員へ届いたある日、子供が食べたくなる調理方法を検索し、工夫して作ってくれる給食調理員の姿があった。

「ナスのから揚げ」「ナスの甘辛煮」「蒸しナスの塩昆布あえ」など、普段、ナスを食べない子が「わあ！おいしそう」「これから食べよう」と、ナスから食べだす姿が見られる。



【おいしくナスを食べる子供】



【調理道具にも関心を寄せる】



【調理方法の工夫】

給食調理員によって調理されたものを喜んで食べる子供の姿から、調理過程や道具について、知らせる機会をつくることにした。

「蒸しナスの塩昆布あえ」を食べた日は、蒸し器を披露してもらった。「これは何？」「お鍋が3つくっついてるね」「どうやって使うの？」と、興味津々の子供たち。

給食調理員から、この3段蒸し器を使ってどうやって作ったかを聞くと、「Nさんすごいね」「こうやって作ってくれてたんだね」「いつもおいしく作ってくれてありがとう！」と感謝の言葉が出てきた。

子供の育ち

社会生活との関わり

健康な心と体

自立心

- ・親しみをもつ給食調理員が作る料理という認識と、調理過程やその道具への関心が高まった。
- ・食に関わることへの関心を高めることで、食べること自体への意欲が高まった。

ポイント

子供の食に対する興味や関心をどう高めるか、大人が工夫できることを考える。

ふりがえり

子供に関わる全ての大人の連携・協働が求められる

毎日の保育の要素として、食育に取り組むためには、保育者だけが食育に関わるのではなく、園の職員全体が協力して取り組むことが大切である。

本園では給食調理員のメニューレシピを保護者へ配信している。「家で作ってみたら嫌いな野菜を食べたんです」という声も届く。園で給食調理員へ声を掛ける保護者も多い。

園により、職員構成の人的環境は異なるが、園内でも様々な大人の関わりが考えられる。それぞれの立場で子供たちに寄り添いながら必要な働き掛けをしていくことが必要である。

園内においても、園外においても子供に関わる全ての大人が、子供の育つよりよい教育について共通理解し、連携・協働していくことが求められる。